

## モデルプログラム H-1 子どもの日本語教育の理論と方法 —学習ニーズと教育の方法—

ねらい	外国人児童生徒等への日本語指導に関わる／関わろうとする者が、代表的な言語教育の考え方や指導方法とシラバスの関係について理解し、学習者のニーズに合わせてシラバスを作成しようとする。
対象	<input type="checkbox"/> 教師を目指す学生（教員養成課程他） <input checked="" type="checkbox"/> 日本語教育を学ぶ学生 <input checked="" type="checkbox"/> 現職日本語指導担当教員 <input type="checkbox"/> 現職一般教員 <input type="checkbox"/> 管理職 <input type="checkbox"/> 指導主事 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語支援員／母語支援員
日本語指導・外国人児童生徒等教育の経験	<input checked="" type="checkbox"/> 経験なし <input checked="" type="checkbox"/> 1年目 <input checked="" type="checkbox"/> 2-4年 <input type="checkbox"/> 5年-9年 <input type="checkbox"/> 10年以上
高めたい資質・能力	<input type="checkbox"/> 捉える力（子どもの実態把握） <input type="checkbox"/> 捉える力（社会的背景の理解） <input checked="" type="checkbox"/> 育む力（日本語・教科の力の育成） <input type="checkbox"/> 育む力（異文化間能力の涵養） <input type="checkbox"/> つなぐ力（学校作り） <input type="checkbox"/> つなぐ力（地域作り） <input type="checkbox"/> 変える／変わる力（多文化共生社会の実現） <input type="checkbox"/> 変える／変わる力（教師としての成長）
主な内容	H 子どもの日本語教育の理論と方法
活動形態	<input type="checkbox"/> 講義型 <input checked="" type="checkbox"/> 活動型 <input type="checkbox"/> フィールド型 <input type="checkbox"/> 実習
時間	60 分
流れ（・項目）	活動（◇活動の工夫）
1. 自身が受けてきた外国語教育を振り返る。（5分） ・言語教育の考え方と方法（H）  2. 学習ニーズとシラバスの関係を知る。（15分） ・日本語指導の内容（シラバス）（H）  3. 代表的な言語教育の方法について知る。（25分） ・オーディオリンガル・アプローチとコミュニカティブ・アプローチ（H） ・文型練習（H） ・意味を重視した活動（H）  4. 日本語と教科の統合学習について知る。（15分） ・内容（教科等）と言語（日本語）の統合学習（H）	1. 受けてきた外国語教育について、次の観点で振り返る。 何を学んだか、どのように学んだか、どのような学習材を利用して学んだか、どのような教え方が効果的だと思ったか。  2. 日本語教材の目次をもとに、目的に合ったシラバス（項目）で教えることの重要性を理解する。 1) 子どもたちがどのような場面で、どのような日本語の力が必要かを、場面・スキル・具体的な表現を挙げて考える。 2) 子どもの学習ニーズと教材の目次とをマッチングをし、学習項目の選定の重要性を知る。 文型シラバス・場面シラバス・トピックシラバス・機能シラバス 3) 文型シラバスの例を見て、学習項目の選定の仕方を知る。  3. 2タイプの授業のビデオを見て、それぞれの利点と問題点について話し合う。 1) オーディオリンガル・アプローチの授業と、コミュニカティブ・アプローチの授業の動画を見ながらメモを取る。 2) それぞれの方法の利点と問題点をペアで話し合う。 ・オーディオリンガル・アプローチ、コミュニカティブ・アプローチ ・パターン・プラクティス、タスク活動、ロールプレイ  4. 指導案の例を通して日本語と教科の統合学習の考え方や授業の仕方を知る。 1) おしゃべりができるが教科の理解が困難な子どもの事例から、日本語で学習参加する力を育成する必要性に気づく。 2) 日本語と教科の統合学習の指導事例（指導案）を見ながら、授業を想像し、その考え方と授業の構成の仕方を知る。
備考	可能であれば、1、2、3の活動を、それぞれに時間をかけて行い、実践の基本的なスキルを高めることが望ましい。また、実習時の学習として位置づけてもよい。

